

# 宮城いきいき便り

## 震災年卒業ゆえに絆強く

いきいき学園石巻校「いちご会」会長の木村さん

### 山に植樹、施設慰問で喜ばれる

東日本大震災が起き 一つのボランティア部 して、毎年5月に石巻市の水沼山でのツツ 植樹の主催者のイン ターネットでの呼び掛 けもあって、全国から ボランティアが参加す る。「植樹が終わる頃には、地区の婦人部 メンバーからごちそうが振る舞われ、交流も進みます」と木村さんは喜ぶ。

「いちご会」には四つの活動部門がある。その 会の開催が主な事業だ。 植樹ボランティアと ウオーキング、パーク 行ってきた。植樹する ゴルフ、卒業同期交流 山には車の乗り入れが 可能で、足腰に自信の ない仲間も参加できる。

卒業式は残念ながら中止となったが、15 期生がさまざまな 活動をスタートさ せるまで、その時間は かなりなかった。

### 地域貢献で顕彰受賞

宮城いきいき学園石巻校の15期生は「1」と「5」を「二期一会」になぞらえて「いちご会」と称し、さまざまな活動を行っている。地域貢献・社会貢献活動が認められ、2015年度には日本生命財団の生き生きシニア活動顕彰を受賞した。会長の木村寅吉さん(73)に日頃の活動の様子などを伺った。



植樹活動で笑顔を見せるメンバー (後列左から2人目が木村さん)

施設慰問は東松島市の特別養護老人ホーム「矢本華の園」を訪問し、利用者の前で踊りを披露したり、三味線を弾いて一緒に民謡を歌ったりし、リクエスタを受け取るなどいつも好評だ。



高齢者施設ではつらつと踊りを披露



山の斜面を彩るツツジ

木村さんは石巻市沼津地区で農業を営む傍ら、13年ほど前から民生委員・児童委員を務める舞い、ソーマン流しを企画するなど喜ばれている。

「多忙な毎日を送る木村さんのモットーは「心身とも健康第一、みんなと仲良し」、そして「自分も楽しんでボランティア」。今、一番の悩みは「光陰矢の如し。時間が欲しい」と笑う。目が生き生きと輝き、最後まで力強く語って生らとともに、震災の被災者が暮らす石巻市だ。」